

令和6年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	どの学年も基礎・活用ともに概ね目標値を上回っている。基礎的な力は身に付いている。1・3年において文法の項目で目標値を下回っている。自分事として考えられるような魅力的な学習活動を実施する必要がある。どの学年においても考える力を身に付けさせたい。各単元の中で「知識・技能」「思考・判断・表現」が繋がる指導を実践し、その中で生徒自身がメタ的立場で粘り強さや学習調整を自認できる機会を作る必要がある。
社会	どの学年も基礎・活用ともに目標値を下回っている観点が見られる。特に歴史分野で目標値を下回っているため、より関心を高めるような教材を使って意欲的に学べるような工夫が必要である。そして、生徒自身が歴史の事象について興味・関心をもち、考える力を育成できる授業を展開できるように授業準備を行っていく。また、「知識・技能」の観点で繰り返し基礎を確認する習慣を取り入れていく必要がある。
数学	1・2年生においては、基礎・活用共に目標値を上回った。3年生は活用は目標値を上回ったものの、基礎の部分で目標値を下回った。領域別に着目すると、2年生は「正の数・負の数」と「平面図形」が、3年生は「連立方程式」と「データの分析」において目標値を下回っている。誤答分析シートによる言葉の意味を押さえていなかったり、説明をしたり、読み取ったりといった問題に課題がある。そのため、数学の用語を用いて言葉による説明をし合ったりする活動の機会を増やしていく必要がある。
理科	特に2・3年生で基礎問題の正答率が高くなかったため、今後単元の導入には、生徒が興味・関心を引くような動画や実験・観察、発問を取り入れていく。そして、理科の基礎・基本の定着を図るために、「1問1答形式の確認テスト」の実施や授業内で既習事項の確認などをしていく。定着状況を教員が把握することで、授業に創意工夫をしていく。また、思考力・表現力を高めるために授業内で既習事項を活用して問題解決を行い、グループで意見交換をする場面を増やしていく必要がある。
英語	1年生はすべての項目で目標値、区平均を上回っているが、基礎が身についていない生徒が少なくはないので、個別最適化の学習が望まれる。2年生は、目標値は上回っているものの、区の平均を僅差で上回るにとどまる。「リスニング」が課題で、すべて区平均を下回った。リスニング能力の向上のため、シャドーイング等の音読練習も必要である。また「語順整序」問題も下回っている。正しい語順の知識を身につけさせたい。3年生は昨年に引き続き多くの問題で区の平均を下回っている。「3文以上の英作文のみが区平均を上回っていることは授業での練習の成果であるが、語形変化や語順整序の点数が低いことを考えると語彙と文法の習得をさせるため、自分ごととしてアウトプットする訓練が必要である。

本校の教育目標

学び考える人

優しく心豊かな人

鍛え努力する人

本校が生徒に育成したい力

- ①人間尊重の精神を基盤として、心身ともに健康で国際感覚を持ち、将来の夢に向かって努力する人間力の育成を目指す。
- ②基礎・基本を確実に習得させ、それを活用するための思考力・判断力・表現力育成を図る。
- ③主体的に学習に取り組む態度を養い、個性を生かして自らを高めようとする力を育成する。
- ④生徒の言語活動を充実させ、家庭との連携を図りながら、生徒の学習習慣を確立させる力を育成する。

校内における学力向上推進体制

- ①基礎・基本の定着のため、各教科・各授業でその授業の振り返りを行う。
- ②各学年・各教科で「滝紅中 授業スタイル(授業規律)」を実践する。

学力向上にかかる経営方針

重点目標)
課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力を育成する授業を実践する

- (1)校内研修会を活用した授業改善
- (2)学校ファミリーを基盤とした幼小中一貫教育の推進

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法 の工夫	教育課程編成上 の工夫	校内における研究 や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との 連携の工夫
①数学において、習熟度別 少人数授業を行い、生徒の学習状況に応じて個に応じた学習指導を展開する。 ②言語活動を全教育活動を通して行い、コミュニケーション能力の育成を図る。 ③きたコンを活用した自学自習の調整と促進。	①授業時数の確保を徹底し、学習時間を保証する。 ②学習支援員やパワーアップ講師を活用し指導の充実を図る。 ③「朝の読書活動」の時間を設定し、本を読むことの楽しさと学ぶ意義を理解させる。	①ギガスクール構想に基づき、きたコンを活用した授業改善について校内研修会を行い、授業力の向上を図る。 ③巡回訪問等の機会を利用し、魅力ある授業研究を行い工夫改善をする。	①定期考査までの期間を補うため適宜確認テストなどでこまめに評価活動を行う。 ②巡回訪問等の機会を利用し、魅力ある授業研究を行い工夫改善をする。	①家庭学習の習慣を身に付けるために、学校と家庭の連携を密にする。 ②きたコンやHP・学校便り等で情報を発信する。